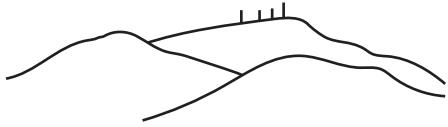


# Youth Manna

2020/9/21 - 9/27



マルコ 1:35

さて、イエスは朝早く、まだ暗いうちに起きて寂しいところに出かけて行き、そこで祈っておられた。

2020/9/21(月)

## エレミヤ 3 章

今日の箇所では、イスラエルと神様の関係が夫婦の関係のように書かれているね。イスラエルが背いたことが、神様にとって、妻が夫を裏切るようなことだとしたら、神様の心はどれほど傷んだことだろうか。だけど神様はそんなイスラエルに対して、「帰れ」「立ち返れ」と呼びかけているね。

教会はキリストの花嫁と呼ばれています。私たちはイエス様とそれほどまでに親しい関係に入れられたということなんだ！

イエス様の愛に、今日どのように応えて生きますか？犯している罪をそのままにせず、神様の方に歩み出そう！

2020/9/22(火)

## エレミヤ 4:1-18

ユダの国は悪い心とよこしまな思いを(14)持ち、それが行動と生き方に現れて神様から離れていました。神様はそれを知りながら、愛を持ってわたしのもとへ帰れと言われました。(1)それはその心が真の悔い改めによって変えられて、生き方が変わることを意味しました。また義なる神は、北の方からのわざわい、激しい裁き敵の攻撃が迫っていることを伝えました。その裁きは民の罪のせいだけど、救われるために悪から心をきよまることを神様は心から願っていました(14)

きみの心は何でいっぱいになっているだろうか？今日！もう一度神様を心の中心にお迎えしよう！！

2020/9/23(水)

## エレミヤ 4:19-31

エレミヤはイスラエルが神様から離れ続けていること、その罪によって裁きを受けることに心を痛めているね。神様はなんで「裁き」という苦しみを与えるのかな？

神様は私たちを人を誰よりも愛してくれている方だね。その神様が「裁き」として災いを送るのは、もちろん人々を苦しませたいからじゃないんだ。そのことを通して人々が自分の罪に気付いて神様に立ち返るために裁きがある。

だから、27節をもう一度読んでみよう。神様は「滅ぼし尽くしはしない」と約束してくださっているんだね。

私たちも「なんでこんなことが起こるの？」って思う時、神様を見上げよう。助けを求め、気づかされた罪があれば悔い改めて神様の愛に立ち返ろう。

2020/9/24(木)

## エレミヤ 5:1-19

子どもが罪を犯してしまった時、親は子どもがその問題に気づいて自分から謝ってくるのを待つことがある。そのとき親は、すでに「赦している」のである。神様はその親以上に忍耐深く愛をもって私たちを待っている。

罪を犯し続ける民に対してもあわれみを明らかにされた。主は私たちの全てを知っておられる。しかし、主は私たちを愛し、赦すために待っておられる。

主の前に進み出て、悔い改めて主を信じ、心から主を宣言して歩もう！

2020/9/25(金)

## エレミヤ 5:20-31

エレミヤがいた時代、ユダの人々は神様を無視し続けた。自分勝手に生きる罪の道を選んだのである。「結局、あなたがたはどうするつもりなのか」という神様の質問は、正しい道を知っているがどうして間違った道へ行くんだ！という神様の思いを表している。

私たちは「そんな事をしてどうするつもりなのか」と神様に質問されるような行動をしていないだろうか？少し考えてみよう。

ユダの人々は目があるのに大切なものを見なかった。耳があるのに大切な事聞かなかった(21)。次の御言葉を思い巡らそう。

イエスから、目を離さないでいなさい。

(ヘブル 12:13)

イエスは...言われた。「聞く耳のある者は聞きなさい...立派な良い心でみことばを聞いて、それをしっかり守り、忍耐して実を結びます。

(ルカ 8:5-15)

2020/9/26(土)

## エレミヤ 6:1-15

エレミヤはエルサレムがバビロンの攻撃でもうすぐ負けてしまうことを宣言していた。エルサレムの人々は神様を神様としない結果、偶像礼拝をしたり、暴力的な罪が町の中でいっぱいになったりしていたんだ。そして、神様が忠告しても悔い改めなかった。この預言があったときも、内容を受け入れはしなかったね。自分にとって都合のいい事ばかりを聞いて受け入れてしまったんだ。

神様の声を聞くとき、つい自分の都合ややりたいことを基準に考えてしまうことはないかな？

神様の声をそのまま聞いて従っていけるよう祈ろう。そして今から少しの時間、静かに神様の声を聞く時間を持ってみよう！！

2020/9/27(日)

## エレミヤ 6:16-30

神様はエレミヤに民の現状を調べるように命じて、その結果をエレミヤは神様に報告しました。そのまとめが「主が彼らを捨てられたのだ」という今日の最後の一節でした。でもこれは神様の思いではありません。神様は民を捨てることはなく、あわれみの思いを持ち続けていました。神様の思いは「それゆえ、諸国の民よ、聞け。会衆よ、知れ」ということばに表されています。神様は、背を向けて逆らい続ける民に対して、なおも語り続け、神様ご自身の愛を知って欲しいと心から願っていました。さばきさえも民への愛の一つの表れで、神様は民を愛することをあきらめることはできませんでした。

神様は私たちのことも愛し、みことばを通して私たちに語りかけ、私たちが神様の心を知ることが願っています。神様のことを知れるようにいつも祈って聖書を開きましょう！